

いくさ世^ユを知ること

沖縄県立開邦中学校一年 安仁屋 学都

いくさ世を知ること

沖縄戦は住民を巻き込んだ地上戦
この小さな島で
二十万人以上の命が失われた
生きるはずの未来があったんだ
叶えたかった夢があったんだ
仕方なかったとか
他に方法がなかったとか
そんな理由じゃ済まされない
誰のために死んだのか
何のために捧げた命なのか
みんな分かっている
納得できる理由なんてあるわけないって
僕は 慰霊の日を迎えるたびに
大切なことを学んでいる
沖縄戦を知ることとは
未来を守ることにつながるんだって

いくさ世を忘れないこと

ひいばあちゃんが教えてくれた
七十八年前 十四歳のひいばあちゃん
学校では竹やりを持たされて
戦い方をならった
意味がないことだと思ってた
弁が岳で日本軍の壕を掘らされた
素手で掘り ザルで運び出す
体中が泥まみれになってすごく嫌だった
いくさが始まるともう逃げるしかない
爆撃で死んでしまったお母さんを
ごめんねとその場に埋めた
涙は出なかった
自分もすぐ死ぬんだと思った
小さな妹の手を引いて必死に逃げた
誰も助けてくれなかった
人間が怖かった
僕は ばあちゃんがかわいそうで
何て言ったらいいか分からなかった
でも話してくれたことは
忘れてはいけないんだ

いくさ世を伝えること

ひいじいちゃんからは聞けなかった
僕が二歳の時に亡くなってしまったから
だから お父さんが教えてくれた
戦後 ひいじいちゃんが靴屋になったこと
米軍人のブーツを修繕して
生計をたてていたこと

腕が良いと
コザで人気の靴屋になったこと
いくさでは怖かったアメリカ人とも
自然と仲良くなったこと
でも

沖縄戦の話はお父さんも聞いていない
だから僕は
靴屋になったひいじいちゃんを想像した
優しくしてみんなに愛される 街の靴屋さん
いくさがなければ
人生はかわっていたと心から思った

いくさ世を生き抜いた命に感謝すること

ひいばあちゃんが僕の頭を優しくなでる
僕を抱っこして笑うひいじいちゃんの
写真を見せながら
僕が生まれたことを喜んでくれる
だから
悲しくて 思い出さたくないだろうけど
いくさ世を生き抜いてくれて
僕のおばあちゃんを生んでくれて
僕のお父さんへ命をつないでくれて
ありがとうって伝えたい

いくさ世を二度と繰り返さないと誓うこと

戦争を始めるのは人間
ひとりひとり違う人間
でも同じ星で生きている命
奪って 壊して めちゃくちゃにして
後にのこるものは何
得られるものはどんなこと
いくさ世を知るウチナーンチュは
戦争がもたらす
悲しみと虚しさを知っている
戦争は終わっても苦しみは消えないことを
忘れない

命を守りたい
夢を叶えたい
幸せな未来を生きたい
僕たちの思いはこの空の下で混じり合う
僕たちの声はこの空の下で響き合う

僕たちは知っているから
僕たちは忘れていないから
伝えたい 平和の大切さを
感謝したい つながれた命に
二度といくさ世にしないと誓って